

こういき通信 第70号



矢部広域病院 広報委員会
平成29年 11月発行 編集担当：柿田 留美（リハビリテーション科）
大城 美栄（外来）

八朔祭

9月2日(土)約250年前から代々受け継がれてきた歴史ある「八朔祭」に今年も参加しました。当日は素晴らしい好天に恵まれ、絶好のお祭り日和になりました。地震の被害で通潤橋の放水が中止されている影響か、若干見物客の少なさを感じながらも、町内の皆さんの声援は毎年変わらず私たちを後押ししてくれました。熊本地震からの復興はまだ道半ばですが、八朔祭健在のもとにこれからも頑張ろうと思えた一日でした。

祭りでは当院職員以外にご家族、友人知人の方々など多くの皆さんにご参加いただき、その力を借りながら一生懸命に町内を回ることで、祭りを盛り上げる事が出来ました。参加された有志の皆さま、本当にお疲れさまでした。そして、準備から当日まで関わって頂き支援して下さった全ての方々に感謝を申し上げます。

文責：一般病棟 ケアエイド 和田 悦子（ミドル会）

初参加でした

福山 幹太（リハビリテーション科 理学療法士）・・・矢部広域病院に入職して約半年が経ち、今回病院スタッフの一員として八朔祭に参加しました。本番が近づいてくると、仕事を終えて踊りの練習を行いました。どういふことをするのか、どういふお祭りなのか全てが初めての体験でしたが、当日はスタッフが一致団結し最高の祭りになったと思います。また、今回八朔祭に参加したことで、地域の方々との交流ができる良い機会になりました。来年も全力で祭りを楽しみたいと思います。

中川 朋子（事務部 医事課）・・・入社3年目にして、初めて広域病院での踊りに参加しました。毎年地区での参加はしていましたが、大人数での参加は初めてでした。お祭りは人数が多ければ多いほど楽しい事に気付かされました。来年以降もできる限り参加していこうと思っています。昨年までは実行委員（ミドル会）をしていたので役員の大変さもすぐわかります。みんなの協力があって一つの行事をこなしていけるのだと思います。これからもみんなで協力しながらいろいろな行事に参加できたらと思っています。

院内感染対策/医薬品安全管理 職員研修会

8月1、2日に院内感染対策及び医薬品安全管理に関する研修会を開催しました。院内感染対策研修としては、今年2月に行われた日本感染症学会主催の院内感染対策講習会の伝達講習を行いました。院内感染対策を実行するためには、対策のシステム化と組織の連携が絶対条件です。それはスタッフの協力体制の構築に他なりません。今後も問題点を再確認し、スタッフの協力のもと院内感染対策を進めていきたいと思ひます。



医薬品安全管理職員研修においては、医薬品副作用被害救済制度について取り上げました。薬の効能と副作用は「表裏一体」であり、適正に使用していても完全になくすことはできません。万一、入院治療が必要になるほどの健康被害が生じた場合に救済が受けられる公的制度が「医薬品副作用被害救済制度」であり、医療機関は、制度に関する説明、書類の提示や手配等患者様を支援する必要があります。今回の研修で職員全体に本制度の概要を知ってもらうよい機会であったと思ひます。

文責：薬剤科 科長 川城 祥寿（院内感染対策委員会・医薬品安全管理者）

新職員紹介



原田 幸紀（はらだ さき 看護部/一般病棟 看護師）

9月から3階病棟に入職しました。鹿児島県の看護学校卒業後、大阪で働き、患者さん第一、優しさを忘れず寄り添う看護を学びました。熊本地震後、すぐに駆けつけられない距離を痛感し、看護師として離れていたら意味がない歯痒さに地元に戻る事を決めました。山都町の町民として、看護師として役に立てるよう頑張ります。よろしくお願ひ致します。



八朔祭フォトギャラリー



参加されたみなさん、お疲れさまでした。また来年も頑張らましよう！